

経営 さぶりメント

各方面の専門家による
ビジネスに役立つエッセンス

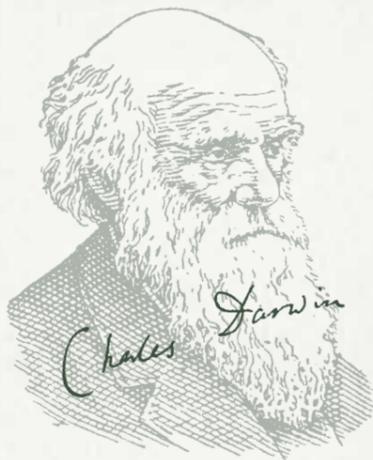


試されている時間

～地方創生は
「国家百年の計」!?!～



生き残り、発展するために
まずは「自分創生」だ!



今まで歴代政権が「地方活性化」と称して様々な施策をしてきました。そこで、あれは何だったのかと思いつくのは、バブル経済の中での「リゾート法」(正式には「総合保養地整備法」)、全国各市町村に対し使途自由でバラまいた「ふるさと創生一億円事業」。

特出しているのが田中角栄内閣の「日本列島改造論」で、人とカネとモノの流れを大都市から地方へ逆流させる「地方分散」を推進することを目的に実施し、今日の日本の地域の礎になっていることに間違いはありません。

田園都市構想

そして注目すべきは大平正芳内閣の「田園都市国家構想」です。「日本列島改造論」は、都市部と地方の格差の解消を目指したのに対し、大平正芳は地方の自発的な意思により、農漁村を基礎単位とし、全国に点在する2～300の「田園都市圏」各々が自立し、これらの「田園都市圏」が経済的、文化的に相互に連携しあう国を構成し、現代にあった「良き共同体」の再構築を目指そうとしたものでした。残念ながらこの構想は1980年の大平の在任中の死により殆ど実行には移されませんでした。人口減少、少子高齢化、空き家等の増大といった課題を抱えている現在の日本、秋田において示唆に富むものとして再考すべきという識者もいます。

当時は「これを遂行しなければ、失敗したら日本が終わる」という危機感もなければ、百年の計であることの自覚も覚悟もなかったかもしれません。

一億総活躍社会

また、ここにきて安倍内閣のぶち上げているのが「地方創生」に加えて「一億総活躍社会」です。政策の方向は正しいと思いますが、問題はこれらを実現するための財源を確保するための手段です。労働時間の短縮・シェア等、様々な環境を民間企業も自助努力で賄っていかなければならないことは勿論ですが、日本の企業の7割以上は未だ赤字申告企業で占められています。その上、国の借金が1,000兆円という天文学的数字に達していることは、あまりの数値の大きさに想像力が追いつかないのか、安倍さんも国民も忘れてしまったのでしょうか。現在の人口減少、企業の減少の中、それらも経済の活況による税収の増加を当てにするしか道はないみたいですが。

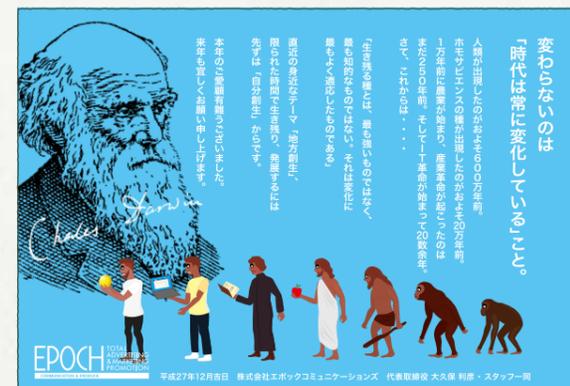
日本の人口減少 ちっとも怖くない!

そんな中で、「日本の人口減少 ちっとも怖くない～人口が減れば生活は豊かになる～。歴史人口学の権威が説く逆転の発想」というのが、昨年(2015年)の文芸春秋9月号(慶應大学名誉教授 速水 融)に掲載されていました。

氏が述べているのは「人口が減ること自体は社会の近代化における自然な流れであって、それほど心配することではない。むしろ人口減少は日本にとって良いことだとすら思う。大事なのは悲観論に陥らず、人口減少によって起きる事象の意味を冷静に考え、社会の変化に合わせた対策を着実に実行していくことではないか」「むしろ問題視すべきは、日本の人口が明らかに過密状態にあるということ…。(中略)日本の理想的な人口規模は、7千万から8千万人程度ではないでしょうか。ちょうどイギリスの人口密度の4分の3くらいで、ドイツの人口密度に近い数字です。」現在の安倍政権では「50年後に人口1億人程度を維持するという長期目標も、さらなる経済成長を前提にした議論です。(中略)地方の衰退はこれまで築き上げてきた日本文化の崩壊につながります。(中略)単純に「人口問題=悪」と決めつけるのではなく、客観的な研究に基づく議論が求められているのです」と結んでいます。

変わらないのは「時代は常に変化している」こと。

人類が出現したのがおよそ600万年前。ホモサピエンスの種が出現したのがおよそ20万年前。1万年前に農業が始まり、産業革命が起こったのはまだ250年前。そしてIT革命が始まって20数年。さて、これからは…



▲エポックコミュニケーションズ 昨年の年末状

「生き残る種とは、最も強いものではなく、最も知的なものではない。それは変化に最もよく適応したものである」

直近の身近なテーマ「地方創生」、限られた時間で生き残り、発展するにはまずは「自分創生」からです。

これは、当社の昨年の年末状の文章ですが鍵カッコ内は、ご存知のダーウィンの「種の起源」の一説です。ここで彼の言説で見落とされているのは「人間を含む多くの動物種の個体同士で協力し合うことがある」と主張し、これを「社交性および共感力」と名付けています。近代社会は、これと正反対の方向へ向かってしまいました。すなわち、「協力」よりも「競争」を優先するようになったのです。そのおかげで我々は多くの物質的なものを享受することが出来たのは確かですが、此のことをこのまま続けていくことが、果たして「自分たちにとって豊かなことか」と疑問を持つようになっていく人達も相当数多くなっているのも事実です。都会を離れ新しい価値観を見出そうと、ここ数年の地方への移住者・その希望者の急増はこのことを如述に表しています。

イラストの赤いリンゴは人間が授かった「知恵の象徴」を表しています。そして最後の光る球は未知の「知恵」を表しています。

今は、我々が未知の「知恵」を探し、創造出来るか試されている時間かもしれません。B

参考資料:「田園都市国家構想と戦後日本の国土計画」

法政大学大学院 竹野克己

:文芸春秋2015年9月号 慶應大学名誉教授 速水 融

:「経済は、人類を幸せにできるか?」ダニエル・コーエン



株式会社エポック
コミュニケーションズ

代表取締役
大久保 利彦
Toshihiko Okubo

【略歴】
昭和26年10月4日秋田市生まれ。
昭和58年3月 (有)エポックシステムエージェンシー設立。代表取締役就任。
平成4年7月 (株)エポックコミュニケーションズに組織変更。
平成8年7月 (株)ティーエムコミュニケーションズ(本社:東京・赤坂)を設立。代表取締役就任。
平成11年7月 (有)アキタネット(現(株)アキタネット)設立。代表取締役就任。
平成20年9月 東京オフィス開設。